

2021年度「多摩地域市民活動公募助成」事業実施報告書

団体名 特定非営利活動法人さんきゅうハウス

代表者・役職名 氏名 理事長 大沢豊

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

お弁当炊き出しプロジェクト

2. 団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

2010年に「困った人を見捨てない」をモットーに、生活困窮者の支援活動を始めました。衣食住だけでなく、人や地域、社会との繋がりなど、目に見えないものも大切にしながら活動しています。コロナ禍では、かつてないほどに多くの生活困窮や路上生活の相談が寄せられていますが、これからも全ての人に開かれた地域の居場所としての役割を担い続けていきます。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

コロナ禍によって多くの人が生活困窮や路上生活に陥ってしまっており、当法人もかつてないほどに多くの相談を受けています。元から非正規で不安定な就労形態だったのが、コロナにより失業に追いやられる、という構図の当事者が多く、一度失業すると家賃や公共料金、携帯料金が支払えなくなり、たちどころに生活が崩壊し、一層生活の立て直しが困難になるという悪循環に陥ってしまいます。そのような最低限の衣食住も脅かされている人たちの増加を受け、相談だけでなく、継続的な食料品や日用品などを提供する機会が必要だと感じました。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

毎週土曜日に、市内二か所(羽衣町、高松町)を拠点に、希望する方にお弁当を提供しています。弁当は、さんきゅうハウスと青梅市の有志ボランティアによって作られます。また、弁当の他、フードバンクを通じて提供していただいたアルファ米・乾麺などの食料品や菓子類(節分会のお豆もいただきました)、その他ご寄付いただいたウェットティッシュ・マスク・古着などの生活用品なども併せて必要な人にお渡ししています。来る人は50人程度、老若男女問わず、中にはお子さん連れの方など、様々な事情を抱えた方が来られます。お弁当はもちろんのこと、普段は口にできないようなお菓子やマスクなどの必需品なども非常に喜ばれています。また、当プロジェクトの理念に共感し、古着や不要となった日用品をご寄付いただく方も増えており、融通し合いの場ともなっています。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生じた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

当プロジェクトの期間である4月～9月には毎週欠かさずお弁当炊き出しができました。夏の期間は、食中毒の懸念からレトルト食品やパックご飯などで代用しましたが、毎週50食を半年間、延べ1200食程度の提供となりました。弁当は受け取る人たちからは生活面で非常に助かっていると大変好評をいただきました。世情はコロナ感染者が増加する中で五輪開催で、開催の賛否で人々の分断も起こる中、「困った人を見捨てない」という理念の元、苦しい人々への連帯を示すことができました。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

当プロジェクトの期間である9月を過ぎた現在も、お弁当炊き出しを必要とする人たちは減っておらず、むしろ増加傾向にあり、事業は継続しています。しかし財源の捻出が困難となっており、法人の資金の切り崩しや持ち出しボランティアで維持している状況です。また、利用者の増加を受けても、財源や人手に限りがあることから配食数の増加は困難な状況であり、これまでご家族の分として複数のお弁当を渡していた人に対しても原則1人1つということでお断りしている状況となっています。今後も事業を止めることは難しく、どのような枠組みで支援を続けていくかが課題となっています。

7. 参考資料：プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等の現物またはコピー、活動状況の写真などを、“必ず”、別途、ご提供ください。

